



目が違ったため、周りの子が「なんで指がないの?」のように素朴で無邪気な質問をしてくるものです。

そんなときはこの絵本を思い返してください。ハンディがあっても、支援やお助けグッズがあれば、たいていのことはできます。むしろ、「手足がないからできない」といった社会の側にある心のバ

アーを取り除くチャンス。すぐに理解できなくても、きつ
といつか、子どもたちの想像
力を高めてくれるでしょう。

さつちゃんと同じ障害のある子や当事者でもある制作者たちの思いを記した資料も別添されています。図書館では外されるので、ぜひ購入して、絵本とともに大切にしてください。

たっちちゃん ぼくが きらいなの
 — たっちちゃん は しべいしう 山頂山
 ぶとろどしなまが へやまど ナカボ


たっちゃん ぼくがきらいなの
— たっちゃんはじへいしよう (自閉症)

(岩崎書店)

ASDの子の特性を知る

ASDは「コミュニケーション

と呼んでいた子どもたちのことも含みます。

ASDの症状は幼少時から認められ、多くは3歳までに診断が可能です。しかし、知的障害を伴わず、言葉の発達が良好である場合は、小学

の認知が進んでいます。A
SDを含む発達障害は、生ま
れつきの脳機能障害であり、
親のしつけや愛情不足など育
て方が原因ではないというこ
とも、しっかり伝えていきたく
いものです。

校入学後や成人になって初めて診断を受けることもあります。

たっちゃんはその様子から、知的障害を併せ持っているようです。ASDは、知的な遅れを伴わない方も含めると、100人に1人程度いるといわれます。

絵本の後半で、ASDは親の育て方によるものではなく、脳機能の障害であるということに焦点を当てています。今日、発達障害への社会

ことなどにも、触れてもらえ
るとうれしいです。

（島根県立大人間文化学部
准教授・水内豊和）

土曜掲載



この絵本はベンという耳の
不自由な男の子のお話です。
ベンのありのままの日常や心
情が的確に、シンプルな親し
みやすいイラストで明るく描
かれています。

聴覚障害のある人は誰でも
手話が理解できると思われが
ちですが、手話利用者は聴覚
障害者全体の14%ほどです。
また、補聴器を付けても音の
種類や環境によって有効性は
違い、補聴器による聞こえの
改善には限界があります。

「手話を知らないし、どう話

そう。筆談がいいのかな」と、
りかけてください！」

聴覚障害のある人への接し方
に戸惑うかもしれませぬ。
「だいたいなことは、聴こえ
方がどうのこうのとらわれ
ずに愛情をもって意志を伝え
合つことです。とにかく話し
かけてみましょう。さあ、語

そう。筆談がいいのかな」と、
りかけてください！」

聴覚障害のある人への接し方
に戸惑うかもしれませぬ。
「だいたいなことは、聴こえ
方がどうのこうのとらわれ
ずに愛情をもって意志を伝え
合つことです。とにかく話し
かけてみましょう。さあ、語

聴覚障害者と話をしよう

ぼくのだいじなあおいふね

(偕成社)



ぼくのだいじな
あおいふね

ディック=ブルーナ
ピーター=ジョーンズ 文・なかがわけんぞう 絵

「ぼくのだいじなあおい
ふね」(ディック=ブルー
ナ・絵、ピーター=ジョ
ーンズ・文、なかがわ
けんぞう・訳、偕成社)

います。彼女がコメントを寄
せてくれました。

☆☆☆

小さい頃によく読んだこの
絵本は「ただ、聴こえない、
聴こえにくいだけで、他のみ
んなとほとんど変わらないん
だよ」というメッセージが込

められているのではないかと、
感じていました。同時に

「ベンはみんなと変わらない
子どもなんだよ。でも、ゆっ
くりはつきりと口の動きが見
えるように話しかけるといい
んだよ」と、聴覚障害者への
やさしい寄り添い方も紹介し
てくれています。

「まずはベンのことを知る
ことから始めようよ」と気付
かせてくれる絵本でもあると
思います。障害への理解以上
に、その子の好きなもの、得

意なことをたくさん見つけて
ほしいです。

聴覚障害の有無にかかわら
ず、子どもから大人まで読ん
でもらいたいです。友だちに
早口や横を向いた状態で話
しかけられたとき、補聴器を
付けたときなど、ベンの表情
は異なります。そこに注目し
て、表情の意味を考えながら
読むと、もっと楽しめると思
います。

☆☆☆

聴覚障害者のコミュニケーション
方法には、手話、指文
字、口話、補聴器、筆談など、
いろいろな方法があります。

お子さんと、この絵本をき
つかけに、筆談やジェスチャ
ーで伝え合う遊びをしたり、
手話について調べてみたりす
ると良いですね。

(島根県立大人間文化学部
准教授・水内豊和)

土曜掲載



ピコットさんと息子のサイモンとパトリックは、すてきな家に住んでいます。でも、ママは、家の中でいつもみんなのお世話はかりしています。朝、パパと子どもたちは、ママが朝食を作って出してくれるのを当たり前のようになだ座って待つだけ。彼らが仕事や学校に行った後、ママは朝食を片付け、ベッドを直し、部屋を掃除し、ようやく仕事に出かけます。帰宅するとママはすぐに夕食の準備、片付け、洗濯、アイロンがけ、朝

おんぶは こりごり



アンソニー・ブラウン 作 藤本朝巳 訳

「おんぶはこりごり」の表紙
(アンソニー・ブラウン
作、藤本朝巳訳、平凡社)

絵本では、ママが家から出て行った後、パパも子どもたちも家事をするようになりました。最後にママは家に戻ってくるのですが、大好きな車

ーギャップ指数で、日本の政治・経済・教育・健康の4部門の総合順位は156力国中118位に過ぎません。ジェンダーにおける役割期待に関する課題を解消するため、社会にある固定観念をどう取り払っていけばよいのでしょうか。

(島根県立大人間文化学部
准教授・水内豊和)

|| 土曜掲載 ||

「家事をするのはママ」風刺

おんぶはこりごり (平凡社)

食の準備。パパたちはただ食べて寝るだけ。ママへの感謝は一切なしです。そんなある日、ママは家を出てしまします。ママのいない生活はどうなるのでしょうか。そして、ママは帰ってくるのでしょうか。

性別に基づいて社会や文化を期待されること、あるいはその役割そのものを指して「ジェンダーによる役割期待」といいます。例えば男性が外で働き、女性は家事や子育てをするものといったステレオタイプな考え方が挙げられます。この作品そのものですね。2024年7月3日に新紙幣の顔となった津田梅子は、日本の近代化をリードし、大きく貢献した女性だということと選ばれたそうです。そんな令和の時代なのに、世界経済フォーラムが24年6月に発表した世界におけるジェンダー

いじりをする姿はとても楽しそうです。男だからとか女だからといったステレオタイプな役割期待ではなく、パパもママも子どもも、個々の人権が尊重され、自分の得意を生かして協力しつつも自分らしく生きられる。読み聞かせでは、そんな家族になっっているかどうか話し合ってみてはいかがでしょうか。

作中はかわいいフタの絵がたくさん隠し絵のようにちりばめられています。絵本の原題は「PIGGY BOOK」(「piggy back (おんぶ)」)と

かけてあるようです。他にもいろいろな仕掛けがあります。風刺の効いた、ユーモアあふれる絵本を親子で楽しんでみてください。